

こんにちは 2017年2月2日 第128号

ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



chikamiki222@gmail.com
☎&fax 042-582-1870
☆自宅:日野市万願寺 6-35-9
カサベルデ 201
☆ちかざわ事務所(三沢中学校
のそば)日野市三沢 1-13-5

いつでも、どんなことでもお電話下さい ちかざわ携帯 ☎090-9313-1192

都も一緒になって「虚偽」を?ごみの搬入路を「広場」と。

都に法を守り事実に基づいた判断を求める

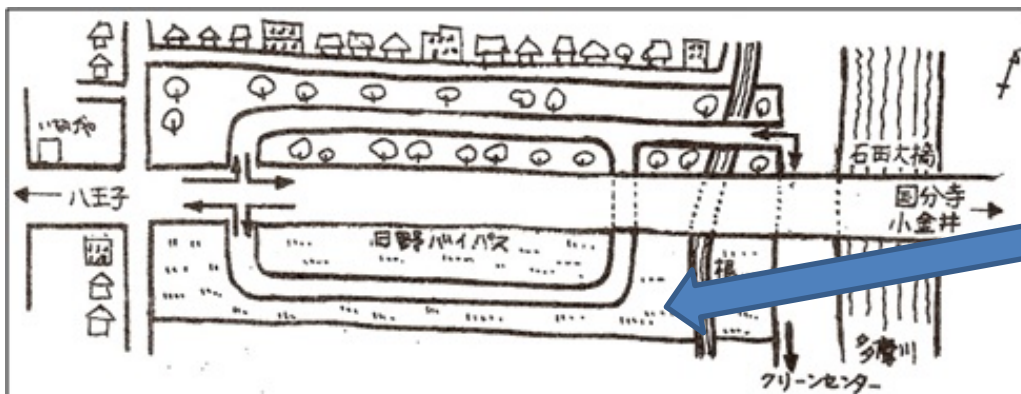
日野市が石田地域のクリーンセンター焼却炉へ他市からのごみを運び込むための道を北川原公園建設予定地内に建設しようとしている問題で、国道20号南側の東京都下水道局の所有する土地(下図矢印部分)の使用許可申請について、「市は都に対してごみの搬入路を『広場』として申請していた!」と当ニュース「こんにちはちかざわ美樹です」の昨年12月22日付第124号でお知らせをしていました。

この件について1月30日(月)、日本共産党市議団は、「ごみ搬入路裁判に勝利し、行政の違法を正す市民の会」の方々などといっしょに東京都下水道局流域下水道本部を訪ね、今回の使用申請について事実とは異なる使用目的で出されている申請を許可しないよう申し入れをしてきました。この申し入れは日本共産党東京都議団を通じて行いました。

ごみ車両の道を「広場の『管理用通路』だと都

この日対応した流域下水道本部の管理部長に対して中野あきと市議団長から「東京都下水道局の所有するこの土地は『ごみの搬入路』として使う計画になっており、許可申請書の使用目的に書いてある『広場』ではないことを都は知っていないながら許可をだすつもりか?」と質問したところ『『広場』の中に『管理用通路』を作ると聞いている」「そこを清掃用車両が通行することも知っている」「2月中には判断したい」と答えました。

この土地は、汚水処理施設を整備し、その上に蓋をして北川原公園を整備することが都市計画決定させています。バイパスの北側同様この土地に「ごみ搬入路」を建設することは法律違反です。それがわかっていて都も市といっしょになって「広場」と誤魔化して通そうとしているのだとしたら、とんでもないことです。



この土地は 6800 平米、ごく一部を除き、フェンスで仕切られ、搬入路が作られるため、遊んだり散策することはできません。

ごみ広域化計画強行は許されません。白紙にして住民と一からの見直しを!

【日本共産党の無料法律相談】 第1.2.3木曜日予約制です
第1.3木曜日 18:00~20:00 第2木曜日 13:00~15:00



東京23区との「違い」明らか。「多摩『格差』」は解消を

1月25日、東京都が2017年度の予算案が発表されました。これに対する党都議団大山とも子幹事長の談話の中に「多摩島しょ地域振興のための市町村総合交付金は、10億円増額されました。わが党は、医療分野をはじめ23区と多摩地域の格差を是正するために、さらなる取り組みの強化を求めています。」とあります。

昨年12月都議会の一般質問で多摩地域（東村山・東大和・武蔵村山市）選出の尾崎あや子都議は小池知事に対して小中学生の医療費の所得制限について「多摩格差」があることなどを指摘し、解消を求めました。

日野市の小中学生の医療費助成制度は通院1回につき200円で所得制限があります。多摩地域では19市が所得制限を設けていますが、23区では所得制限がありません。

また、新生児集中治療室NICUは東京全体で329床ありますが、多摩地域には72床しかありません。

小池都知事が力を入れたいと言っている都道の「無電柱化」は2015年度末で区部は55%に対して多摩地域は17%です。

「同じ東京都民なのに」経済的負担が大きかったり、不便である「格差」の解消を求める声を多摩地域からあげていきましょう。

日本共産党演説会 あらたに開催日時が決定！

日時：2017年3月12日（日）14：00～16：00

場所：東部会館3階ホール

おはなしする人：中野あきと市議団長・都議予定候補（右写真）

国会議員、都議会議員要請中

保育あります。ぜひお子さん連れでお越しください。



日本共産党発行



日刊●月3497円
日曜版●月823円



東京民報は東京がよくわかる週刊新聞、月額400円です。ご連絡いただければすぐに無料宣伝紙をお届けします。市議会・市政報告、いつでもいたします。新しいデザインになった日本共産党の綱領パンフレットをぜひお読み下さい。入党のご相談はいつでも。

いのちがいらばん

1月28日、日野・市民自治研究所主催の「東京再開発フィーバーの危うさ」という学習会に参加しました。オリンピックにむかって東京を「世界とたたかえる国際都市」に再生させるといっていますが、これでは都心部から住民は追い出されコミュニティどころではありません。翌29日は「平和を守る会かわせみ日野」が、貧困と格差を考える「いのちとくらし 崖っぷちのわたしたち」という集まりを開催しました。主催者の予想を超える参加者があったと伺いました。今週「多摩格差」の記事を書きましたが、私たちは、どんなまちで暮らしたいのでしょうか。「緑と清流」が守られる、どの世代の人も安心して暮らせるまち。今日、高齢で独居の方を訪問したら「〇〇さんがおかずを運んでくれるの」と。こんな声の聞けるまちに。



ちかざわ美樹